

SEKONIC DIGI MASTER L-718

使用説明書



株式会社

セコニック

〈本社・営業部〉

東京都練馬区大泉学園町7-24-14
〒178 ☎03(3978)2330

〈大阪営業所〉

大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル
〒541 ☎06(263)1571

〈名古屋営業所〉

名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル
〒460 ☎052(251)6201

〈東京サービスセンター〉

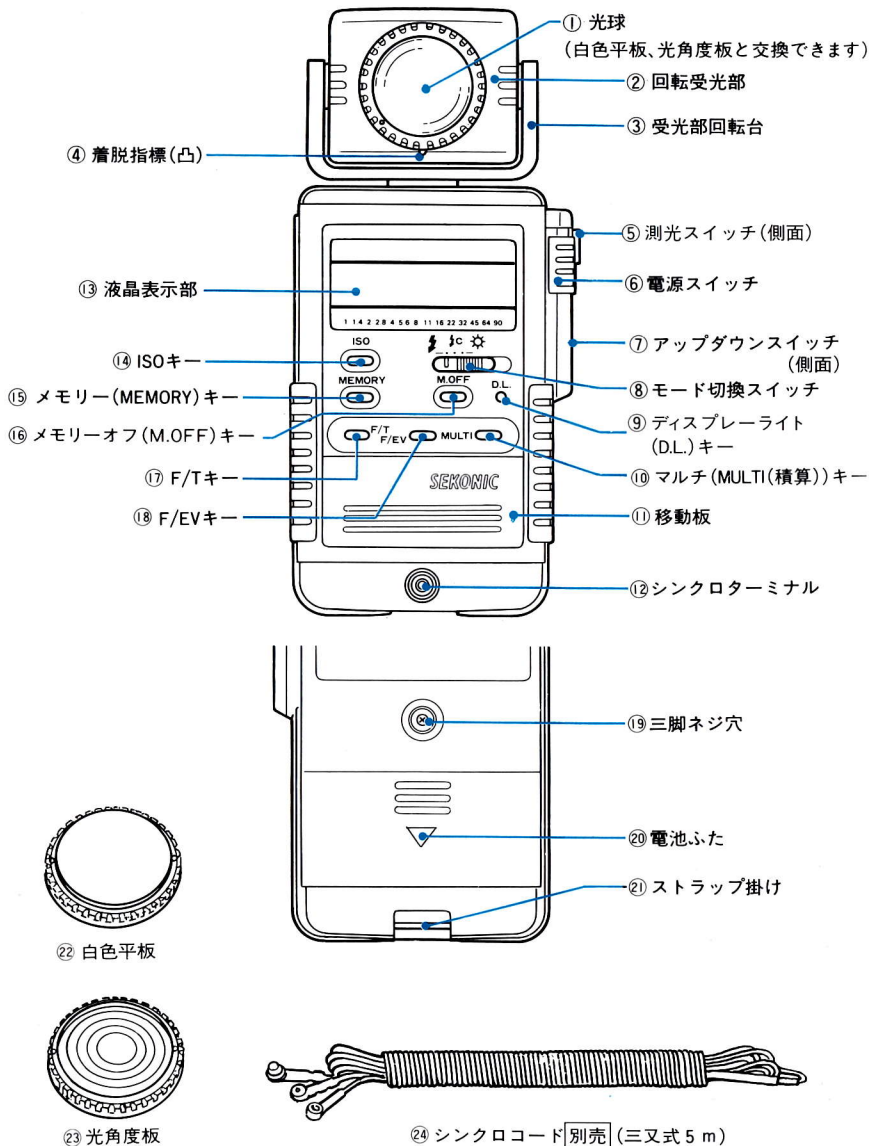
東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル
〒162 ☎03(3269)7243

お買い上げありがとうございます。使用前にこの説明書を必ずお読みいただきこのL-718の性能を十分にご活用ください。

目次

	頁
① 各部の名称	1
② 液晶表示部	2～3
③ モード選定と操作一覧	4～5
<hr/>	
④ 付属品と測定の方法	6～8
入射光式測定	6
反射光式測定	7
<hr/>	
⑤ 準備及び測定	9～14
準備	9
1 電池を入れます	9
2 測定モードを決めます	10
3 フィルム感度(ISO)を合せます	11
4 タイム \square を合せます	12
5 ディスプレーライト(D.L.)について	13
6 測光スイッチのロックについて	13
7 指示補正の方法	13
8 その他	14
測定	15～24
1 ストロボ光・コードレス測定	15
測定値のメモリーの方法	16
マルチ(積算)測定	17
2 ストロボ光・シンクロコード接続測定	18
3 定常光の測定	20
照明コントラストの測定	23
照度(ルクス)の測定	24
<hr/>	
⑥ 取り扱い上の注意	25
⑦ アフターサービスについて	26
⑧ 仕様	27

1 各部の名称



2 液晶表示部

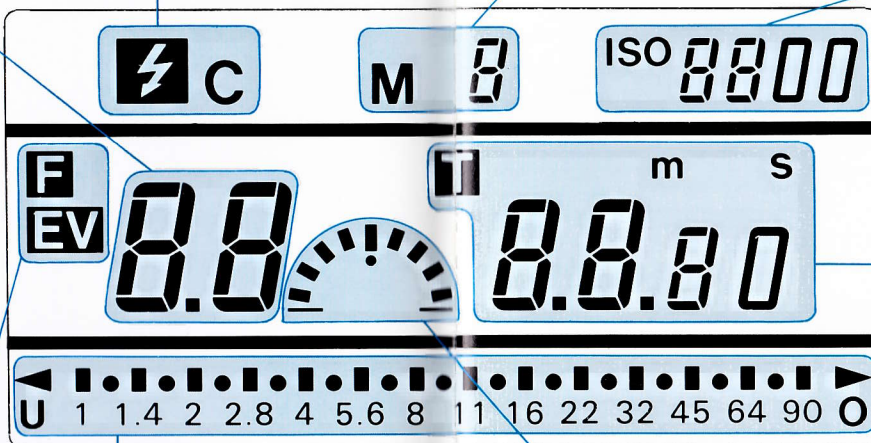
モード表示

- ① コードレス測定
- ② コード接続測定
- ③ C ムービーコマ数が表示されます

モードスイッチが 、 のときマルチキーを押すと M0 が表示され積算回数が 0 ~ 9 回、10 回以上は E (エラー) が表示されます。

- ① 電源スイッチを ON したとき b.c の文字が表示されます。
- ② 測定 F 値の整数項が表示されます。
定常光 (1.0~90)
ストロボ光 (1.4~90)
- ③ 測定 Ev 値の整数項表示 (-6~25)
- ④ 定常光 F 優先モードのときアップダウンスイッチにより設定 F 値が表示されます。(1.0~90)
- ⑤ 測定範囲外のとき E.o (オーバー) E.u (アンダー) が表示されます。

ISO キーとアップダウンスイッチの操作によりフィルム感度が表示されます (ISO3~8000)



アップダウンスイッチの操作により設定タイムが表示されます。

- 定常光
30m~1/8000
m は分、s は秒
m.s 表示なしでは 1/n 秒表示
- ムービーコマ数は 1/8000 のあとに
8 16 18 24 32 64 128 と表示されます
- ストロボ光
1s~1/500
- 絞り優先モードのとき設定 F 値に対応したタイムが表示されます。
30m~1/8000
測定範囲外は E.o、E.u の表示がされます。

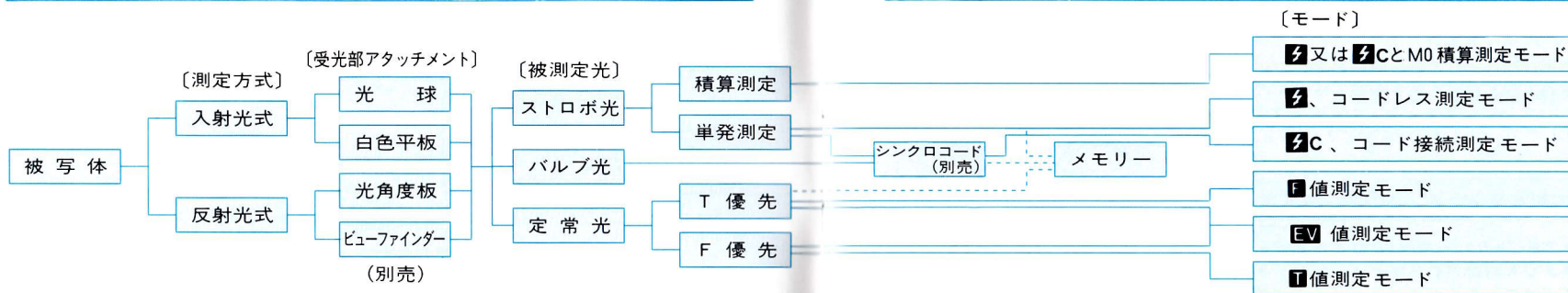
F/EV キーの操作により **F** 又は **EV** が表示されます (モード時)

タイム優先モードのとき (アナログ表示がされます)

- ① 測定 F 値の表示がアナログ的に 1/2 AV 単位で表示されます。
- ② 測定後メモリーキーを押すとデジタル表示部の値が 2 回までドットとなりメモリーされ表示されます。
- ③ 1~90 は F 値が印刷されています。
- ④ 測定範囲外のとき 、 が表示されます。

- ① 電源スイッチ ON にしたとき電池容量の表示がされます
(~)
- ② 測定値 F 値、EV 値の小数項が表示されます
((0.1) ~ (0.9))

3 モード選定と操作一覧



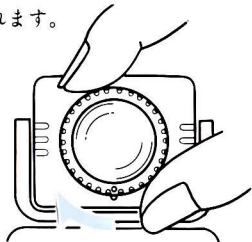
モード表示 スイッチ キー操作	定 常 光		ス ト ロ ボ 光	
	表示なしとC(ムービー)の表示		⚡C、コード接続モード	⚡、コードレスモード
電源スイッチをONすると	b,c文字と電池容量(🔋)をドット表示し、その後モードスイッチの指示モードが表示される。			
モード切換スイッチをスライドさせると	 各モードの表示		 ができます。	
ISOキーを押したままアップダウンスイッチを押すと	ISO 3 ~ 8000 までのフィルム感度がセットできます。			
アップダウンスイッチを押すと	<ul style="list-style-type: none"> ● T (タイム)優先 30分~$\frac{1}{6000}$秒までのタイムと8、16、18、24、64、128のムービーコマ数がセットできます。 ● F (絞り)優先 F1~90までの絞り値がセットされます。 		1秒~ $\frac{1}{600}$ 秒までのタイムがセットできます。	
F/T切換キーを押すと	T → F (F5.6) F → T (125)の優先モード切換えができます。		_____	
F/Evキーを押すと	T または F ↔ Evの切換えができます。		_____	
MULTIキーを押すと	_____		単発と積算測定(M0)の切換えができます。	
測光スイッチを押すと	<ul style="list-style-type: none"> ●各測光モードで、その時の明るさが測定できます。 ●測光スイッチをロックすると明るさの変化に追従して連続測光ができます。 		コードで接続したストロボを発光させ、その時の明るさが測定できます。	⚡マークが点滅して測定準備がされます。その後ストロボ光を受光したとき、その時の明るさが測定できます。
メモリーキーを押すと	T優先モードの場合のみ2回まで測定値がアナログ部に $\frac{1}{2}$ AV単位のドットでメモリーされた表示ができます。		単発測定モードで2回まで測定値がアナログ部に $\frac{1}{2}$ AV単位のドットでメモリーされた表示ができます。	
メモリー・オフキーを押すと	最後にメモリーされたアナログ部のドット表示がアナログ表示に変換されメモリー値がリセットされます。			
D.L.キーを押すと	電源ONで液晶表示がされているときのみ液晶表示部のバック照明がされます。			

4 付属品と測定の方法

この露出計は、受光部アタッチメント交換方式です。測定目的に応じて各付属品を取りつけ、液晶表示部⑬の読み易い方向で測定して下さい。

受光部アタッチメントの取り付け方

1. 回転受光部②の凸部(着脱指標)④に光球①等アタッチメントの橙点を合せてはめ込みます。
2. アタッチメントを時計方向に回転させるとクリックでセットされます。(45°)



入射光式測定

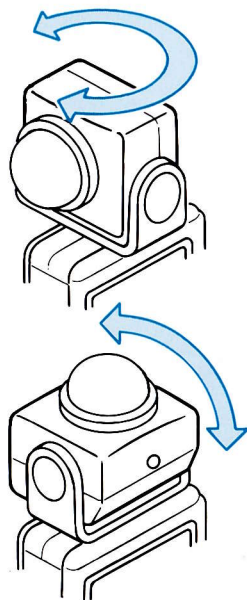
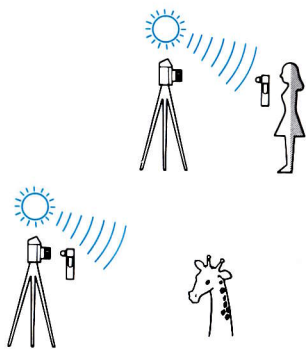
○この方法は被写体に当る明るさを直接測る方法で、被写体のバックの影響を受けずに被写体に対して平均的な露出を求めるときに適しています。

1. 光球①を用いて

ポートレート、その他立体的な被写体等を撮影するときには用います。

スタジオ等で人工光(ストロボ、写真電球)で撮影するときは、かならず被写体位置に露出計をかまえ、光球をカメラの光軸方向に向けて測定してください。

屋外で被写体に近づく場合は、カメラ位置と光線状態が同じならばカメラ位置で測定することができます。



2. 白色平板⑭を用いて

人工光で多灯ライティングするときの主光源、及び補助光源の明るさを測定して照明コントラストを調整するときや(P23)、照度(P24)を測定するときに用います。

反射光式測定

この方法は被写体からの反射光(輝度)を測定する方法です。入射光式では、測定困難な発光体や透過光の測定及び被写体輝度の相対比(被写体コントラスト)を測るときに用います。

1. 光角度板⑮を用いて(受光角54度です)。

カメラ位置、またはカメラ方向から被写体の測定したい部分に光角度板を正しく向けて測定してください。(カメラ位置で測定するときは被写体の全体の平均値になります)

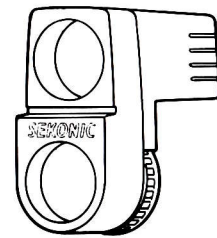
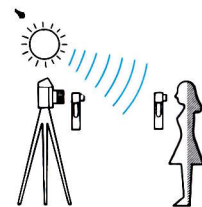
部分測定するときは、できるだけ被写体の主要部分に近づくように測定してください。(露出計等の影が測定部分に入らないように注意してください)。

2. ビューファインダー5° L-718VFを用いて(別売)

このビューファインダーをつけて測定すると、カメラ位置で被写体の主要部分をファインダーで確認しながら測定できます。

受光角5°と狭いので、被写体のコントラスト等を測定するとき便利です。

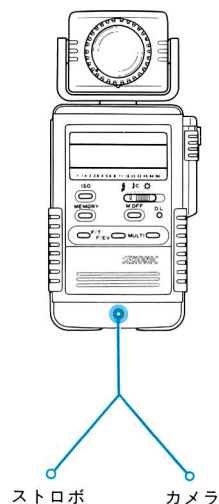
詳しくはビューファインダー5° L-718VFの使用説明書をご覧ください。



5 準備及び測定

3. シンクロコード 別売

露出計とストロボを接続してストロボ光を測定するときに使います。長さ5mのコードは、3つのプラグを持ち、露出計とストロボおよびカメラを同調させることができますので、撮影をするときにもコードを差し換える必要がなく大変便利です。また露出計側の接続端子は、ロック機構がついているので確実に接続することができます。なおコードをはずすときは、ロックを解除するリングの部分を持ち、手前に引いてください。



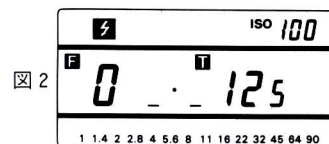
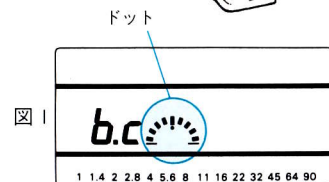
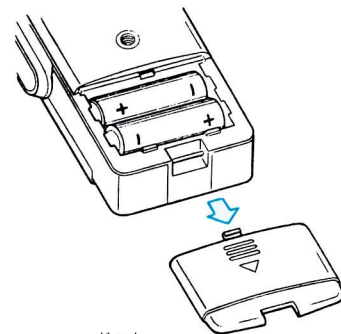
準備

1 電池を入れます

電池は単三乾電池(LR-6又はR6)1.5V×2本を使用します。

1. 電池ふた②の凹凸部に指をかけ押しながら矢印の方向に引いてはずします。
2. 電池の⊕⊖を電池ケース内の表示に合せて⊖側を先に入れ⊖側に指で押すようにして挿入します。
3. 電池ふたを本体に合せ、スライドさせて取りつけます。
4. 電源スイッチ⑥を上側に押してONすると液晶表示部⑬にb.c文字と電池容量が表示され、そのあと測定モードに切り替ります。(図1、図2) 電池容量が少なくなるとドット表示が少なくなり、不足するとb.c文字の点滅、又は表示がされません。
5. ONの状態では放置しますとオートオフ機能が働き4～5分後に自動的に液晶表示が消えます。

- ★オートオフ後、再度使用するときには、電源スイッチを一度OFFにして次にONにしてください。
- ★電池を入れるときは、電池接点の汚れをふいてください
- ★電池を入れて初めてONするとき及び、ON、OFFをくり返し行うとき液晶表示部が表示しかかりその後正常なモードが表示されますが、これは不具合ではありません。
- ★新しい電池および電池を入れ換えたときは余剰な電池消費を防ぐためかならず電源スイッチを一度ON、OFFしてください。
- ★電池の取り外しは⊕側に指先をかけて⊖側に押すようにして取外してください。⊖側より外すと接片をいためることがあります。
- ★測定中、液晶表示部に表示された文字全部が点



減することがあります。このときは電池の容量不足ですので新しい電池と取りかえてください。

★液晶表示が各スイッチキーで操作できなくなったとき、また異状な表示がされた場合リセットさせるため電池を外し10秒以上経過した後電池を入れてください。

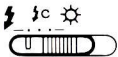

★この露出計には充電式電池(KR-AA)は使用できません。

2 測定でモードを決めます



測定モードはストロボ光のコードレス測定(単発、積算)、コード接続測定(単発、積算)および定常光測定(F値、T値、EV値)のモードがあります。測定モードに応じて切り換えてください。

モード モード切換スイッチ モード切換キー




ストロボ光

- ①コードレス測定(図3) 
- ②コードレス積算測定(図4) 

ストロボ光

- ③コード接続測定(図5) 
- ④コード接続積算測定(図6) 

定常光

- ⑤F(絞り)値測定(図7) 
- ⑥T(タイム)値測定(図8) 
- ⑦EV(露出値)測定(図9) 

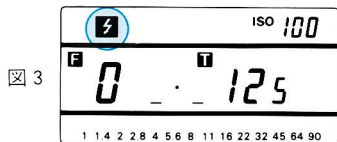


図3

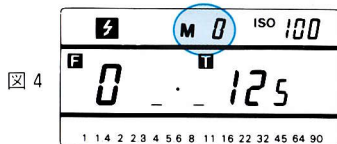


図4

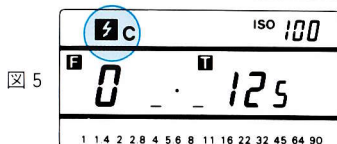


図5

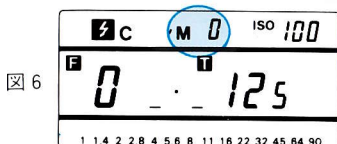


図6

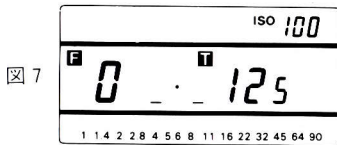


図7

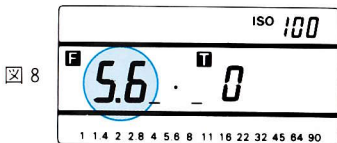


図8

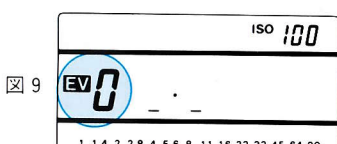


図9

※移動板の開閉の方法

移動板⑪の凹凸部、中央部に指をかけ移動することによりモード切換キー(F/T、F/Ev、MULTI)が操作できる状態になります。

(モード切換キーを操作しないときは、移動板を開じておくと誤操作を防ぐことができます。)

1. モード切換スイッチ⑧を各測定モードに合せセットします。測定モードが液晶表示部に表示されます。
2. 液晶表示後、ストロボ光測定モード(⚡、⚡C)では、マルチ(MULTI)キー⑩を押すと単発測定⇔積算測定、定常光測定モード(☀)ではF/Tキー⑬を押すと、絞り(F)⇔タイム(T)測定、F/Evキー⑭を押すと絞り(F)またはタイム(T)⇔Ev測定の切換セットできます。

★モード切換スイッチでのモード設定は電源スイッチ⑥ON、OFFに関係なく切り換え設定できます。

★モード切換えキー(F/T、F/Ev、MULTI)で設定したモードは電源スイッチOFF、オートオフ、およびモード切換えスイッチを切換えたときは解除されます。

3 フィルム感度(ISO)を合せます

電源スイッチ⑥ONの状態でもISOキー⑬を押したままアップダウンスイッチ⑦の操作でフィルム感度を変換します。(ISO 3～8000)

(例)右の図11は、図10の状態よりISOキーを押したままアップダウンスイッチの▲側を6回押しで変換した図です。

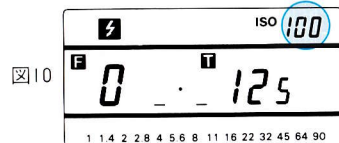
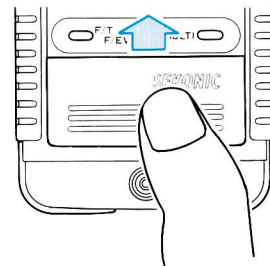


図10

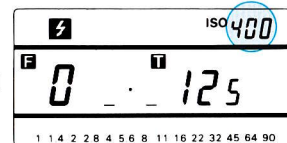
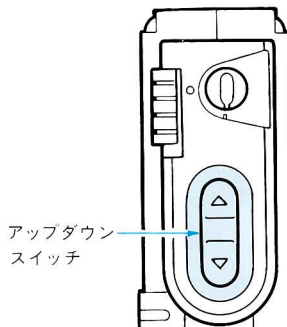
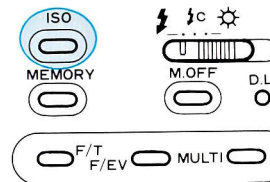


図11

ISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲、または▼側を1秒以上押すと、押している間ISOの数値が連続変換されます。

設置されたISOの数値は、電源スイッチをOFFにしても電池が有効な間メモリーされています。

設定されたISOの数値は、モード切り換えを行っても変換されません。

4 タイム(T)を合せます

電源スイッチ⑥ONの状態アップダウンスイッチ⑦の▲または▼側を押して設定したいタイム(シャッター速度)に合せます。

(例)右の図13は、図12よりアップダウンスイッチの▼(ダウン)側を2度押して変換した図です。

アップダウンスイッチの▲、または▼側を1秒以上押すと、押している間タイムは連続変換されます。

タイムはストロボ光測定モード(⚡、⚡c)と定常光測定モードで各々別に設定できます。

タイム設定できる数値

ストロボ光測定モード(⚡、⚡c): 1~1/500秒

定常光測定モード: 30分~1/8000秒

定常光ムービコマ数: 1/8000秒あとに8 16 24

32 64 128がセットされています。(図14)

(シャッター開角度180°の場合)

設定したタイムは、電源スイッチOFFでも電池が有効な間はメモリーされています。

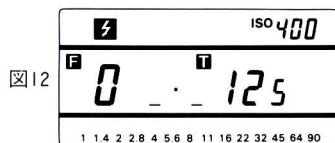


図12

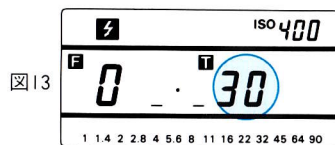


図13

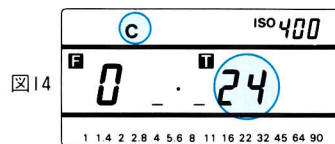


図14

5 ディスプレーライト(D.L.)について

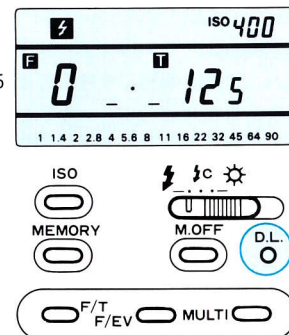
この露出計には液晶表示部のディスプレイライトとしてE.L.でのバック照明がついています。周囲が暗くて液晶表示部が見づらいときに使用します。(図15)

E.L.の照明はD.L.キー⑨を押している間、液晶表示部が照明できます。

D.L.キーを押している間、発振音がありますが不具合ではありません。

測光中はE.L.の点灯はしないで下さい。

図15



6 測光スイッチ⑤のロックについて

定常光モードで連続して明るさを測定したいときに使用します。

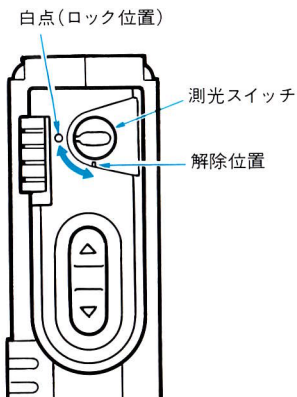
(ストロボ光測定モードでは使用できません。)

ロックの方法

電源スイッチ⑥をONにして液晶表示されているとき測光スイッチ⑤を押して時計方向に(約90°)回転させ測光スイッチの凹部を白点に合せるとロックされます。

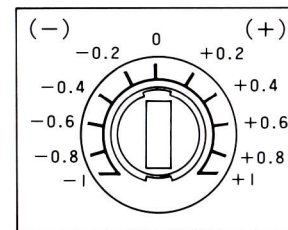
★定常光モード以外のモードでは使用できません。

★測光スイッチがロックされていれば電源スイッチのOFFおよびオートオフはできませんので使用しないときは必ずロックを解除してください。



7 指示補正の方法

この露出計は当社の基準により標準的な校正がされていますが、受光部底面にある補正ボリュームにより、約±1段(EV)相当の範囲で補正できます。補正するときは、十分なテスト撮影をしたうえで、ご自分の好みに合わせて補正してください。



〔補正の方法〕

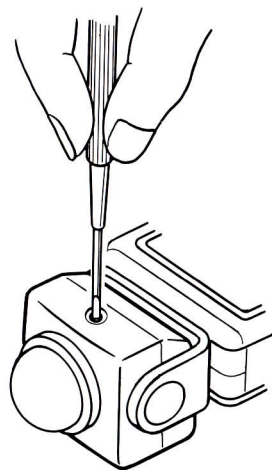
指示補正ボリウムのミゾに⊖ドライバーを正しく入れ、静かに回転して補正します。

時計方向に回転すると指示値が大きくなり、撮影した写真は露出がアンダーになります。

反時計方向に回転すると指示値が小さくなり撮影した写真は露出がオーバーになります。

〔注意〕

- ★補正ボリウムは約±1段(EV)以上は回転できません。
- ★補正以外に、このボリウムはさわらないでください。

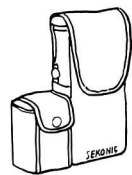
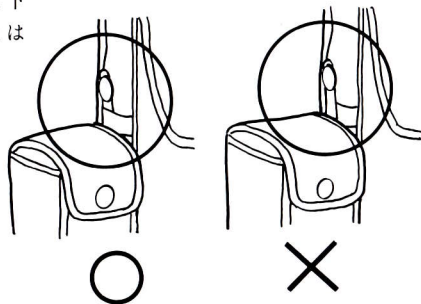
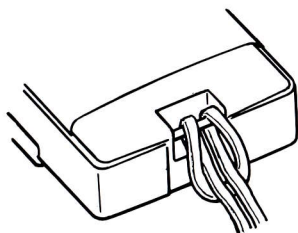


8 その他

- 三脚取付ネジ穴がついていますのでコードレス測定等で露出計を固定保持するときに便利です。
- ストラップの掛け方
- ソフトケース

ソフトケースの内側には付属品等を収納できる袋がついております。

又、別売のL-718用ビューファインダーのケースを取付ける時は、下図左(○印)のように横ひもの下を通してホックを止めて下さい。下図右(×印)のように止めますとはずれやすくなります。



測定

1 ストロボ光・コードレス測定

(シンクロコードを使用しないで測定する場合)
シンクロコードがじゃまなとき、コード接続モードで測定できないときに使用します。

単発測定の方法

1. 測定の準備にしたがって測定できる状態にセットします。(P9~P14)(図16)
2. 測光スイッチ⑤を押すと⚡マークが点滅し、測光待機状態になります。(図17)
3. ストロボを受光すると自動的に測定し、そのときの明るさが、F値で表示されます。(図18)
4. 再度、測定するときは、測光スイッチを押して測定値を0にし⚡マークの点滅をさせてください。
5. ⚡マークの点滅は、測光スイッチを押すと約85秒間持続されます。

⚡マークが点滅していないと測定はできません。

F(絞り)値表示範囲はF1.4~90 $\frac{1}{2}$ までです。

測定値は、デジタル部F値表示とともにドット表示がされます。なおドット表示は、 $\frac{1}{2}$ AV単位で $\frac{3}{10}$ →0.5← $\frac{3}{10}$ 、 $\frac{9}{10}$ →0← $\frac{9}{10}$ の様に表示します。

測定範囲を外れた場合は、E.u(アンダーエラー)、E.o(オーバーエラー)が表示されます。

(図19)

図16

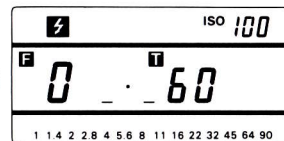


図17

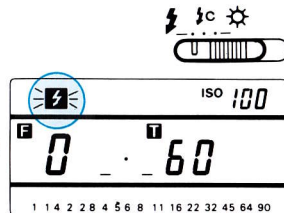


図18

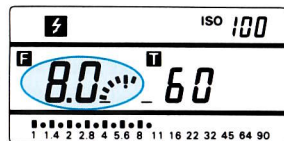
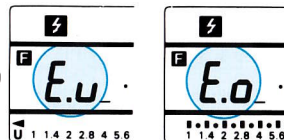


図19



測定値のメモリーの方法

この露出計は、ストロボ光測定では単発測定のみで測定値を2回までアナログ表示部にメモリーできます。

1. 測定後、メモリー(MEMORY)キー⑮を押すと、アナログ表示部の表示がドット(■または●)に変換され表示されます。(図20、図21)
2. メモリーは測定ごとに各1回ずつ2回までメモリーされます。(図22)
3. 3回目にメモリーキーを押すと、アナログ表示部の3個目のドットが点滅して、メモリーできないことを知らせ、最終測定値がデジタル部及びアナログ表示部に表示されます。(図23)
4. メモリーのリセットはメモリーオフ(M. OFF)キー⑯を押してリセットします。(図24)

★測光スイッチを押すとデジタル部の表示は0になりますがアナログ表示部にドットで1/2絞り単位でメモリーされています。(図25)

★電源スイッチOFF、オートオフ、タイムの切換え他のモードに切り換えた場合はメモリーはリセットされます。

図20

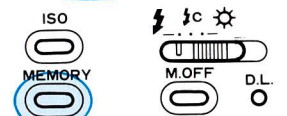
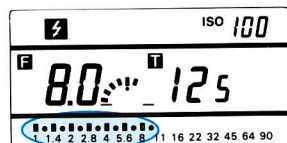


図21

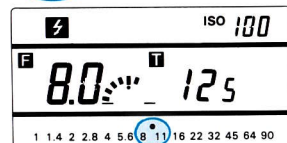


図22

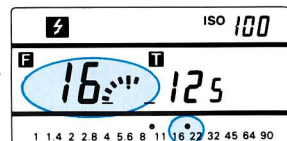


図23

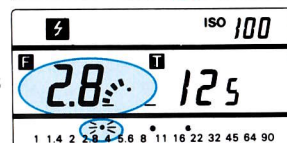


図24

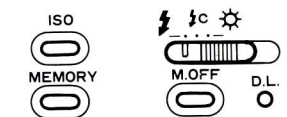
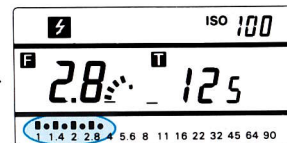
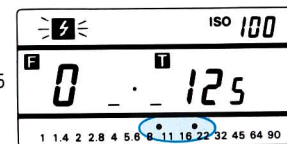


図25



マルチ(積算)測定

1回のストロボ発光では光量不足のときまたは多重露出による特殊な表現をしたいときなどストロボを数回発光して撮影することがあります。このようにときにマルチモードで測定します。

測定の方法

1. モード切換スイッチ⑧を☑にセットしマルチ(MULTI)キー⑩を押すとマルチ(積算)測定モードになります。(図26)
2. 測定スイッチ⑤を押すと☑マークが点滅し測光待機状態になります。(図27)
3. ストロボを受光すると、そのたびに測光し、測定値と積算回数が表示します。(図28、図29)
4. ストロボ発光間隔は☑マークの点滅がされている間であれば9回まで積算測定ができます。
5. 再度測定するときは測光スイッチを押すと測定値および回数が0になり測光待機状態になります。(図30)

(マルチキーを2度押し、その後測光スイッチを押すことでも測光待機状態にできます。)

★積算回数は9回までです。10回以上は回数はE(エラー)表示になり、測定値は9回までの値が表示されます。

★測光待機状態、☑マークの点滅は各測定後約85秒間です。(図31)

★マルチモードでは測定値のメモリーはできません。

(測定値はオートオフまたは電源スイッチOFFまではそのまま表示は残っています。)

図26

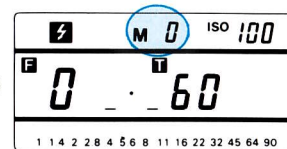


図27

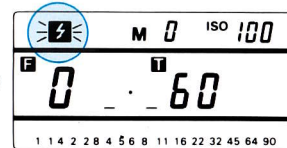


図28

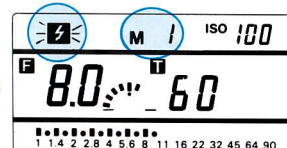


図29

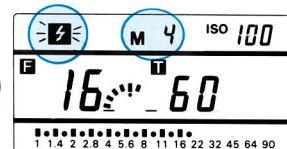


図30

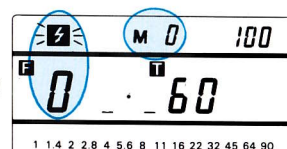
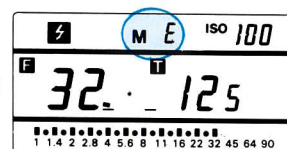


図31



ISO変換による測定後の演算について

測定後、ISOの変換により測定値の演算ができます。

(例) ISO 100→400 F値8.0 $\frac{1}{16}$ →16 $\frac{1}{32}$ の様に演算されます。(図32、図33)

測定値のメモリー後、マルチ(積算)モードおよびストロボ光・コード接続モードでも同じように演算ができます。

★測定後のタイム演算はできません。タイムを変換すると測定値は消え0になります。

★タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることが必要です。

★日中シンクロなど、コードレス測定モードでは周囲の明るさによって測光できない場合があります。このようなときは、コード接続測定モードにしてシンクロコードを接続して測定してください。

★ラピットスタート型蛍光灯や特殊な照明下では、ストロボを発光しないのに動作することがあります。このようなときは、コード接続測定モードにしてシンクロコードを接続して測定してください。

2 ストロボ光・シンクロコード接続測定

手もとの操作でストロボを発光させて測定したときや、コードレスではストロボを発光させても露出計が感じないときは、露出計とストロボをシンクロコードで接続して測定します。

単発測定の方法

1. 測定の準備にしたがってコード接続測定できる状態にセットします。(図34)

(P9～P14参照)

図32

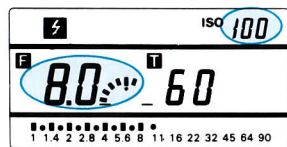


図33

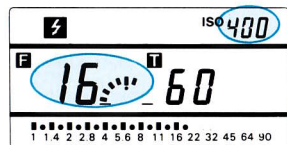
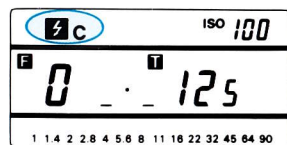


図34



2. シンクロコードを露出計のシンクロターミナルに取り付け、ストロボと接続します。

3. 測光スイッチ⑤を押すとストロボが発光し、そのときの明るさがF値で表示されます。(図35)

4. 再度測定するときは、そのまま測光スイッチを押してください。新しいF値が表示されます。(図36)

[フラッシュバルブを測定するときはT(タイム) $\frac{1}{30}$ 秒より長い方に設定してください。]

★シンクロターミナルにシンクロコードを接続するとき、また電源スイッチをOFFからONにするとき、ストロボによっては発光する場合がありますので、ご注意ください。

★シンクロコードを使用して測定する場合、ストロボによっては発光しないことがあります。(極端にトリガ電圧を低くしているストロボなど)この場合は「コードレス測定」で測定してください。

★タイム設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることが必要です。

★測定後のタイム演算はできません。タイム変換すると測定値は消え0になります。

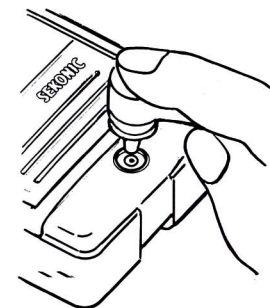


図35

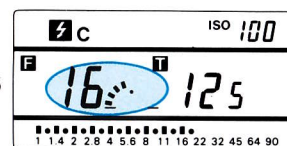
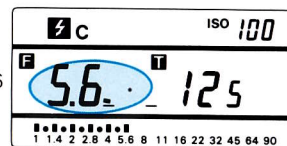


図36



測定値のメモリーについて

ストロボ光・コードレス測定単発測定と同じようにこのモードでもメモリーはメモリー(MEMORY)キー⑬を押すことにより測定値を2点までアナログ表示部にメモリーできます。

マルチ(積算)測定

ストロボ光・コードレス測定と同じようにシンクロコード接続モードでもマルチ(MULTI)キー⑩を押すことによりストロボ光の積算測定ができます。

再測定の場合はマルチキーを2度押すことにより再測定の準備ができます。

3 定常光の測定

測定の方法(F値測定モード)

1. 測定の準備にしたがって、測定できる状態にセットします。(P9～P14参照)(図37)

2. 測光スイッチ⑤を押すと、そのときの明るさがF値表示されます。(図38)

★定常光モードでは、測光スイッチON状態では変動する明るさを連続測光していますので、測光スイッチを離れた(OFF)ときのF値が表示ロックされます。

★F(絞り)値表示範囲はF1.0～F90までです。

★測定値は、デジタル部F値表示とともにアナログ表示がされます。なおアナログ表示は、 $\frac{1}{2}$ →0.5← $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ →0← $\frac{1}{4}$ の様に表示します。

★測定範囲をはずれた場合はF値表示部にE.u(アンダーエラー)、E.o(オーバーエラー)の表示がされます。(図39)

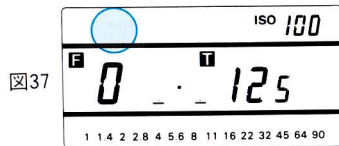


図37

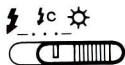


図38

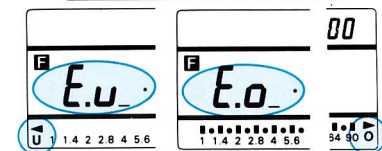
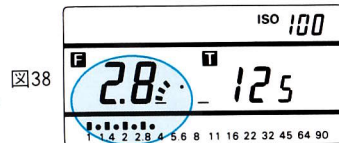


図39

F↔T、優先モードの切換について

F/Tキー⑰を押すと測定の前後に関係なくF値とT値の測定モードに切り替わります。(図40、図41)

F/Tキーを押すと、設定値はT125↔F5.6になりますのでアップダウンキー⑦で設定しなおしてください。

T値測定で測定範囲を外れた場合はT値表示部がE.u(アンダーエラー)、E.o(オーバーエラー)が表示されます。(図42、図43)

T値測定はアナログ部のF値表示ができません。

T値測定では小数部分はF値表示部に表示されません。

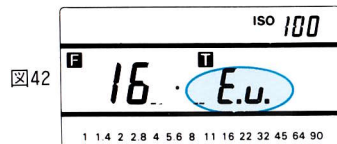


図42

(T優先)

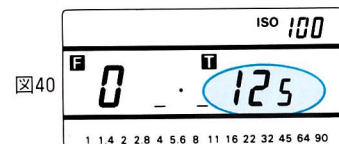


図40

(F優先)



図41

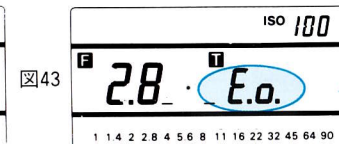


図43

F↔EVの切換について

F/EVキー⑱を押すと、測定前後に関係なくF値表示とEV値の表示が交互に変わります。(図44、図45)電源スイッチ⑥OFF又はオートオフ後、再度ONすると全てF値表示になります。(図46)

EV値表示の場合はドット表示はされません。

測定値のメモリーについて

定常光モードでは、T優先でF値測定するときだけ測定値を2回までアナログ表示部にメモリーできます。(図47、図48)

メモリーの方法はストロボ光モードと同じように測定後メモリー(MEMORY)キー⑲を押すことにより、アナログ表示部の表示が(■または●)に変換され測定値が $\frac{1}{2}$ AV単位でメモリーできます。

ドット表示部には、2回までメモリーされ3回目の表示は測定することに更新し表示されます。(図49)

メモリーのリセットはメモリーオフ(M.OFF)キー⑲を押すとリセットされます。(図50)

メモリーは、電源スイッチOFF、オートオフ、モード切換キーを他のモードに切換えたときはメモリーはリセットされます。

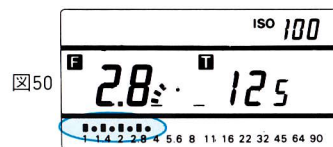


図50

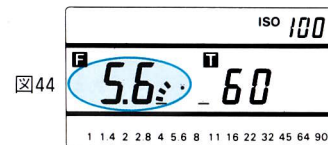


図44

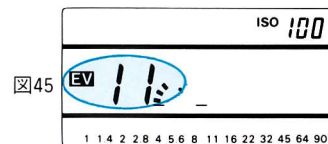


図45

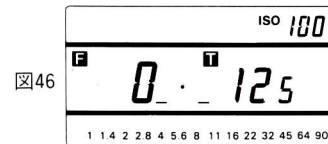


図46

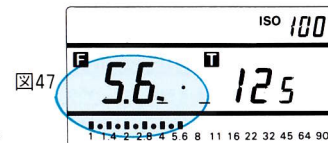


図47

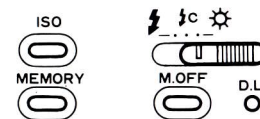


図48

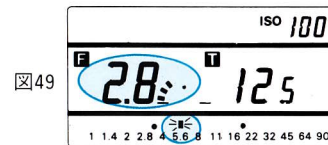
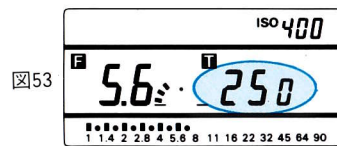
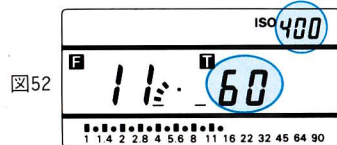
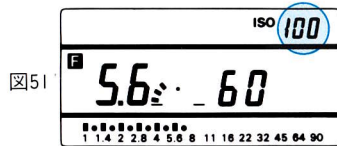


図49

測定後の演算

測定後、ISO(フィルム感度)を変換することにより測定値の演算ができます。(図51、図52)

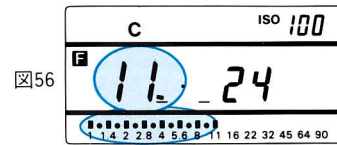
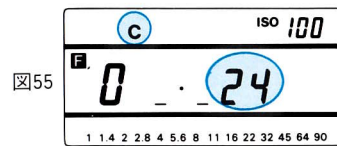
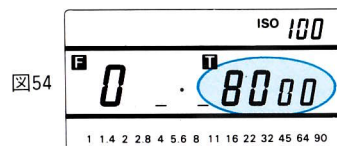
測定後、タイム又は絞りを変換することによりF値、T値の演算ができます。(図52、図53)



ムービーカメラの場合の測定

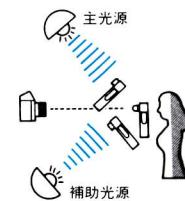
ムービーコマ数は、アップダウンキー⑦の▲側を押すと、タイム1/8000のあとにコマ数が表示されます。設定されているコマ数は、8、16、18、24、32、64、128です。(コマ数はシャッター開角度180°の値が表示されています。)(図54、図55)

測光スイッチ⑤を押すと、そのときの明るさが表示されます。(図56)

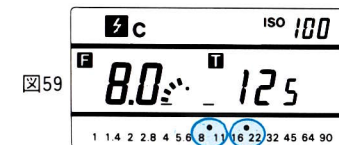
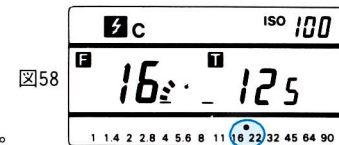
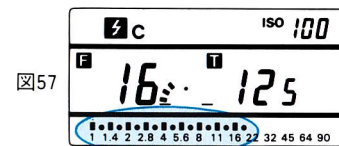


照明コントラストの測定

主光源と補助光源との照明効果を知るため、照明比を測定するとき白色平板を使用して測定します。



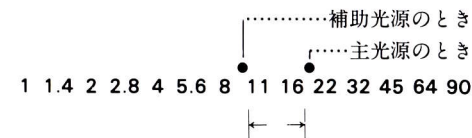
1. 測定の準備にしたがって測定できる状態にセットします。(P9～P14参照)
2. 被写体位置で白色平板を主光源に向けて測定します。(図57)
3. メモリーキー⑮を押して測定値をメモリーします。(図58)
4. 次に被写体位置で白色平板を補助光源に向けて測定します。(図59)
(このときは主光源を消してください)
5. 主光源と補助光源の指示差よりコントラスト比(照明比)を求めます。



- F値で測定の場合はアナログ表示部にメモリーしたF値のドット表示差より求めると便利です。(より正確な値が必要な場合デジタル表示部の表示より求めて下さい)

(例) 主光源 F 16

補助光源 F 8.0 の場合



2絞り差のため、コントラスト比は4:1となります。

6. 露出の決定は、主光源と補助光源を点灯し光球を使用してカメラの光軸方向に向けて測定します。

測定値の差	コントラスト比
1	2 : 1
1½	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1
5	32 : 1

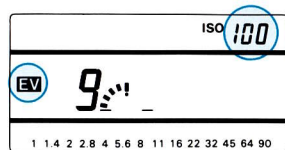
6 取扱上の注意

照度(ルクス)の測定

白色平板②を使用して簡易照度計として、概略の照度を測定することができます。

- EV測定モードでISO100にセットします。(指示値補正ボリュームは0の位置にセットして下さい。P.13参照)
- 白色平板と測定面と平行にして測光スイッチ⑤を押します。(図60)
- 測光表示された値で簡易対比表よりお読みとってください。

図60



小数	整数	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
-	-	1.25	2.5	5	10	20	40	80	160	320	640
☀	-	1.75	3.5	7	14	28	56	112	225	450	900
小数	整数	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
-	-	1280	2560	5120	10240	20480	40960	81900	164000	328000	656000
☀	-	1800	3600	7200	14400	28900	57800	116000	232000	464000	928000

計算で求める場合 照度(LX) = 2.5×2^{EV}

(例) 図の値では 9 ☀ = EV9.5

照度(LX) = $2.5 \times 2^{9.5} = 2.5 \times 724 \approx 1800\text{LX}$ となります。

お買い上げいただいたSEKONIC DIGI MASTER L-718は多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

- 落下または急激な衝撃は絶対にさけてください。
- 高温、多湿な場所には保管しないでください。
- 光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つようにしてください。
- 余分な電池の消耗を避けるため、使用時以外は、できるだけ電源スイッチをOFFにしてください。
- この露出計の使用温度範囲は、 $0^{\circ}\text{C} \sim +40^{\circ}\text{C}$ です。
- 長期的にご使用されないときは電池を外して保管願います。
- 保管温度範囲は $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ です。

万一故障がおきましたときは、最寄の営業所、またはサービス・センターにお持ちください。

お近くに、営業所またはサービス・センターがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

7 アフタサービスについて

★弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受け取りください。なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

- 無料保障期間などについて
- ①無料保障期間はお買上げ日より1カ年間でございます。
- ②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
- ③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。
- ④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
- 補修用性能部品の保有期間などについて
- ①補修用性能部品はお買上げ時より5年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能な場合もありますのでサービスセンターにお問合せください。
- ②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。
- ③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われるものにつきましては修理不可能となる場合があります。

- 修理ご依頼時における留意事項
- ①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご注意ください。
- ②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が受けられます。電池の容量低下、⊕⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。


- 転居の場合の手続きについて
- ①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。
- お問合せ先きについて
本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。


本製品の故障が原因で生じたフィルムの損失、種々の出費、迷惑ないし不都合、精神的な損害、その他すべては、補償致しません。

8 仕様


測定方式●入射光式、反射光式兼用

●ストロボ光および定常光用デジタル露出計

測定範囲●ストロボ光=F1.4~90  (ISO100)

●反射光式F1.4~90 

●定常光=EV-1~EV19  (ISO100)

●反射光式EV-1~EV19 

くり返し精度●±0.1EV

受光部●入射光……光球、白色平板

●反射光……光角度板(受光角54°)


ビューファインダー5° L-718VF別売


●受光部回転式 270°


●受光素子…シリコンフォトダイオード


校正定数●光球C=340、平板C=250、反射光式K=12.5

液晶表示

測定モード表示● ……ストロボ光、コードレス測定

● M0 ……マルチモード

● C ……ストロボ光、コード接続測定

● C M0 ……マルチモード

●表示なし…定常光測定

C…定常光でムービーコマ数表示

EV…EVモード表示

目盛の表示●ISO ……3~8000 (1/2SVステップ)

(各数値の表示)●TIME…ストロボ光 1~1/500秒(1TVステップ)

定常光 30分~1/8000秒(1TVステップ)

ムービー目盛 8・16・18・24・32・64・128コマ

●F値…定常光 1.0~90+0.9AV(0.1AVステップ)


ドット表示 1~90まで0.5AVステップ

ストロボ光 1.4~90+0.9AV(0.1AVステップ)

ドット表示 1.4~90まで0.5AVステップ

●EV ……-6~25.9(0.1EVステップ)

その他の表示●測定範囲外 E.u(アンダー) E.o(オーバー)

●バッテリーチェック b.c. 

使用電池●単III乾電池(1.5V) (JIS:LR-6、R-6) 2本で使用

標準付属品●光球、白色平板、光角度板、ストラップ、電池2本、ソフトケース

大きさ、重さ●157×68×28(46)mm

約190g(電池含まず)

※この使用説明書に記載の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。